



不具合レポートの定性的情報に基づいた 不具合の重要度判別

株式会社CSKシステムズ 那須 一義

開発における問題点

不具合レポートにおける、不具合の重要度は、不具合対策計画において重要であるにもかかわらず、妥当性の検証がレビューなどに限られ、開発後期においては十分に妥当性を検証するだけの時間を割くことができないため、見積りミスが発生しやすい。

手法・ツールの適用による解決

不具合レポートを、数量化分析することで、設定された不具合の重要度の妥当性について検証する。

概要

不具合レポートにおける「不具合の重要度」の設定は、担当者の主観によるところが大きく、妥当性を検証するためのレビューなどは、特に開発後期においては時間の関係上おざなりにされることも多い。そのため、「不具合の重要度」は不具合の対応戦略において、参考意見とされる場合も多い。



発生頻度、影響度、分類、依存性の項目を説明変数として、数量化II類の手法を用いて分析を行うことで、不具合の重要度の妥当性を検証し、不具合の対応戦略における重要な判断材料とする。

検証結果

- ・使用したデータは、実際の開発における不具合レポートから抜粋した検証済みのデータである。
- ・このデータを数量化II類の手法で分析したところ、正判別率は85%であった。
- ・今回使用したデータについては、15%のデータについて再検証を実施することで不具合の重要度の妥当性を判断できる。

課題

- ・項目間の分類にばらつきが少なく、判別不能となる場合があった。
- ・重要度の分類は相対的なもので、またチーム内で分類のすりあわせを行い、個人差による設定値のばらつきを小さくする必要がある。